

神戸地域夢会議「楽しいまち・神戸」をめざす取り組みをつなげよう

と き 平成21年2月22日(日)

ところ 兵庫県中央労働センター

参加人数 120人

開催趣旨

神戸地域ビジョン委員会各グループのこれまでの活動を通じて明らかとなってきた新しい地域課題をふまえ、今後進めていくべき実践活動について議論を行い、これらを新しいメンバーにつなげていくことで、「神戸地域ビジョン～21世紀への夢提案～」に描かれた神戸地域の将来像「楽しいまち・神戸」のさらなる実現をめざす。

テーマ

「楽しいまち・神戸」をめざす取り組みをつなげよう ～“神戸らしさ”を活かした多彩な交流が未来を拓く～

プログラム

○プレゼンテーション

「新しい地域像の構築に向けて」兵庫県企画県民部政策担当部長 塚本隆文

○パネルディスカッション

- ・パネラー:重松浄美、上野善教、山本茂、若菜健太(以上神戸地域ビジョン委員)
- ・コーディネーター:山口一史(神戸地域ビジョン委員会委員長)

○井戸知事コメント

○交流会

- ・キー・ノート・スピーチ(神戸地域ビジョン委員会パートナー:荒井勲、山中修)
- ・意見交換

内容

パネルディスカッションの要旨

- ・自己紹介を兼ねて、所属グループのこれまでの主な活動の紹介
- ・3期～4期の活動を振り返り、そこで明らかとなってきた「新たな地域課題」とは何か
- ・第1回地域夢会議で明らかとなった課題、プレゼンテーション「新しい地域像の構築に向けて」を踏まえ、ビジョン委員会としてめざすべき「新たな地域像」、「今後の実践活動のあり方」を提案



パネリスト発言要旨

○重松委員(グローバルな魅力づくりグループ代表)

グループの主な活動として、平成19年度、20年度ともにシンボルプロジェクトの「神戸ゆめまつり」の交流ステージの出演団体への出演交渉や当日の受付などのステージ運営全般を担当した。この他、平成19年度に「世界華商大会盛り上げコンサート」を開催したほか、ロシアと中国の留学生と交流会を開催し、生活や文化、習慣の違いなどを話し合った。平成20年度は、「農村文化に触れようバスツアー」を企画し、在住外国人の留学生と県民の方、農村の方と交流した。交流会の参加者からは、外国人の方と実際に話をしたり交わる機会がほとんどないため、たいへん喜ばれた、また、在住外国人の留学生からも県民の方に加え、他の学校の留学生とも交流の場がもてたと、大変喜ばれた。

神戸は外国の方が多いが、我々も含めて、外国人の方が近寄ってくると、言葉がわからないために、後ろに引いてしまうことがある。しかし、その場で道を教えることや言葉を交わすことが一つの交流になる

と思うので、積極的に交流を持っていただきたい。

ビジョン委員会の10のグループが、何らかの形で関わりを持っていてほしいと思う。例えば、青少年グループや子育て支援「りたーんじゅく」は、子どもや青少年をターゲットに実践活動を展開されているが、今度は、在住外国人の子どもたちを巻き込んだイベントを企画してもらいたい。そういったグループ間の関わり合いを5期の方につないでいけたらと思う。

また、4年間のビジョン委員活動を、そのまま終わらせてしまうのではなく、自分の経験を踏まえながら、次の委員の相談役にもなれるような、OBの人たちをうまくまとめたOB会というネットワークづくりを始めていければと思う。

○上野委員(青少年グループ代表)

平成19年度上半期は、「神戸ゆめまつり」に参加する子どもたち、青少年たち、大人たちが共通のテーマで何かできることはないかと考えて、「あなたにとって大切なもの」というテーマで写真を広く公募し、写真展を開催した。下半期は、青少年たちが、今何を考え、どんなことで悩み、どんな夢を持っているのかを知るため、様々な機関が実施している「青少年実態調査アンケート」結果を分析した。分析の結果から浮かび上がった青少年の実態をテーマに青少年と大人が意見交換する場所を設けるため、フォーラムの計画・検討を進めてきた。平成20年度は下半期に「神戸ゆめまつり」で子どもたちや青少年たちを対象に恐竜や動物のお面づくりなどのワークショップを実施した。

この2年間で一番強調したいのが、平成20年8月29日に神戸市立原田中学校体育館で開催した「夢フォーラム2008」で、ラジオパーソナリティの谷五郎さんをコーディネーターに迎え、地域ビジョン委員会各グループ代表の方や地域のボランティアの方を含めた大人8名と、中学生17名が、本音のバトルトークを繰り広げた。終了後に青少年たちに対して行ったアンケートでは、「地域のイベント、大人たちの考えたイベントに魅力を感じない、おもしろくない」、「大人の立場で意見を押しつけられても受け入れられない」、「見た目と中身は違うのに、大人は外見で判断しすぎ」、「大人はなぜそんなに私たちに関わりたいのか」という青少年の本音を聞くことができた。

5期ビジョン委員の方々には、この「夢フォーラム」を「2009」、「2010」と継続していただいて、青少年たちと大人たちが本音で何か話し合えるような場を少しでも多く持ってあげてほしい、大人たちがつくっていく「楽しいまち・神戸」もいっしょに、次世代の青少年たちがアレンジしていく「楽しいまち・神戸」こそが、「魅力ある神戸づくり」につながるのではないかと感じている。

○山本委員(六甲山グループ代表)

平成19年度は、「六甲山の楽しみ発見マップ(神戸中央地区)」の作成に向けて、新神戸駅から再度山へのルートで、ビジョン委員が選ぶ必見ポイントの写真をマップに掲載するため、グループメンバーでルートを歩き現地調査を行った。「神戸ゆめまつり」では、六甲山で集めたどんぐりや木の枝を使って、子どもたちに動物や人形、ペンダントなどを作る木工ブースを担当した。また、作成したマップの実践ということで、「六甲山の楽しみ発見(紅葉編)ウォーキング」を開催した。

平成20年度は、平成19年度と同じくマップづくりのコースを選定するため、塩屋から妙法寺、高取山、鶴、菊水、再度山までの現地調査をグループで行った。秋には、「神戸ゆめまつり」で昨年と同じように木工ブースを出展したほか、「六甲山の楽しみ発見(紅葉編)ウォーキング」を開催した。ウォーキングは、自然保護センターの見学と六甲山頂、有馬周辺の散策で、ちょうど紅葉のいい時期でもあり、参加された方々には大変喜ばれた。

六甲山へ登る楽しみとしては、若葉や秋の紅葉とか、四季折々の移り変わりを直に感じられることや、グループで登山した際には、登山の過程で、年配の方から人生観を学べるような人間的な交流が生まれること。また、子どもたちが自然を舞台にしている学んだり教えられることの効果はかなり大きいと思う。

第5期の方に引き継ぎたいことは三つあり、ひとつは塩屋から菊水までのマップづくりを引き継いでやってほしいということ。次に、六甲山の森づくりということで、子どもたちにドングリの苗を植えて、育ててもらって緑いっぱい六甲山にしてもらいたい。育ったドングリは後々子どもたちの工作のドングリになるし、苗が育っていく過程を見ることも環境学習のひとつになる。三つ目は、健康づくりのため六甲山を歩き、定期的に「六甲山の楽しみ発見ウォーキング」を開催してほしい。



○若菜委員（子育て支援「りたーんじゅく」代表）

平成19年度は、「のびやかスペースあーち（神戸市灘区）」へ見学に行き、そこに集まる母子から、子育て世代にどのような課題があるのか聞き取り調査を行い、その課題を解決するための具体的な実践活動について検討を行った。

「ゆめまつり」では、物作りを通じた子どもと親との関わりを提案しようと、親子でエコバッグを作ってもらった。また、平成20年度は、地域のシニア世代の方々にも協力を得て、親子それぞれの思い出が詰まった古着などの端切れを、親子で手提げ袋布などの小物に再生するテーマ別夢会議「思い出布で小物作り」を開催した。

そして、3月7日には、親子で料理を作ることを通じて、家庭での親子の絆づくり、話題づくりに役立ててもらおうとともに、美味しいごはんを食べながら、日本の伝統食文化を守ることが、日本の環境をも守ることにつながることを子どもたちに学んでもらうため、テーマ別夢会議「食べて考えるエコ 親子でクッキング」を開催する。

「りたーんじゅく」の名称には、先人の培ってきた知恵を子どもたちに返していく、そして若者の力を日本をつくってくださった世代へ返していくという意味が込められている。母と子、子どもたちと日本の文化、思い出などを「つなぐ」ということをキーワードに取り組んできたが、リサイクルマークのように、力のそれぞれ持っているよいところを循環させて高め合っていければと思う。

活動の課題としては、テーマ別夢会議への一般市民の方の参加が芳しくないということ。神戸地域ビジョン委員会は、魅力ある人たちの集まりで、本当に素敵な活動をしているということが広く一般に伝わる広報のあり方を検討すべきだと思う。「神戸ゆめまつり」のように、人通りの多い「デュオこうべ」で開催することは、全くビジョンを知らない人にも知ってもらえるという点で非常に効果的であった。

4期委員を中心にOB会を設立して、今後も継続してビジョン活動に参加することで、5期委員の方に、4年間の実践活動で取り組んできたこと、積み上げてきたことを伝えていけたらと思う。また、グループ間の横のつながりを強めるために、事務局にグループ間のマッチングをお願いしたい。グループが相互に一步踏み込んだ提案や協力依頼ができれば、ビジョン活動はもっともっと広がっていくと思う。



●知事コメント

ほとんどの皆さんが2期4年間ビジョン活動をされてきましたが、この4年間で活動が終わるわけではないということが、今日の一つ結論になるのではないかと感じました。

重松さんはOB会を作るんだとおっしゃっていますが、せっかく4年間仲間活動をしてきたわけですので、是非引き続き活動していただいて、そして5期の人たちを指導してやるんだというぐらいの活動を展開していただくとありがたいなと思います。

次にネットワーク化というのは、4年間積み重ねてきた活動に自信が生まれて、他のところとつながりを持って活動できるということだと思いますので、他のグループとのネットワーク化はOBが頑張っていて、そして5期の人たちは自分たちのテーマにボーリングをしていく、学んでいく、研究していく活動を展開していくというふうな役割分担をされるというのも一つあるのではないかと思います。

神戸の場合はテーマが非常に多岐になるため、それぞれのグループの活動が共有財産になりにくいですが、多岐にわたるからこそ非常におもしろいテーマがたくさん加わっていると考えると、自分のテーマとは関わりのない、他のグループの活動に参加するという合同活動をもっと実施していれば、さらに生産的で共有財産化できたのではないかと感じました。これは5期の皆さんに伝えていただくとありがたいなと思います。

上野さんのおっしゃった「どうして大人は子どもにかかわりがるんだろう」という疑問は、「どうしてお母さんは私のことばかり構うんだろう」というのと結局同じで、依存しているようで依存したくない、依存したくないようでも依存したいという、そういう両面の表れの言葉ではないかなと思います。

山本さんのドングリの育成の話をととも興味深く聞きました。六甲山のシイの木がだんだん弱ってきて、実をつけるシイがすく減ってきているとのことですので、六甲山で希少になるつつある木々についても、一種の回復運動という形で取り上げていただくと面白いのではないかと感じました。ドングリ銀行や子どもたちを巻き込んだ植樹・植栽は、安藤忠雄さんが継承している「桃柿基金」でかなり応用しているので、こちらとタイアップしていただくと事業化しやすいのではないかと感じました。

あと、やはり情報発信の広がりやどうやって持つかということが難しい。ビジョン委員の活動そのものを知らない人のほうが絶対に多い。ビジョン委員は何をやっているのかという問いかけを何度も受けられた方が多いのではないのでしょうか。この広報、周知をどうするかというのは、各地域のビジョン委員さん方の共通の悩みでもありますので、これは我々自身もどういう形態で、どういう手段で周知徹底を図っていくのか、あるいは活動ぶりを知ってもらうのかを考えていきたいと思っています。

いずれにしても、神戸にふさわしいまちづくりをどうやっていくかということでもありますので、ぜひお続けいただきたい。継続は力というのをお願いしたいと思っています。まちづくりはデザインだと思います。市民の方々が活動を展開することによって、絵が描けていくということになると思いますので、市民力を発揮していただくためにもデザインをどんどん進めていただけるとありがたいなと思います。そういう意味でも、ビジョン委員の皆様方が活動を展開される十分な意義があると思いますし、だからこそ期待をさせていただきたいと思っています。

